



松山北高等学校清掃奉仕



護

承

御挨拶

宮司 額田照彦

御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております
御祭神は四万九千七百二十八柱です。

今年元日に発生しました「能登半島地震」から半年以上が経過し、各地で復旧復興が少しずつ進んでいた中、九月二十一日には「能登半島を襲った豪雨」により、甚大な災害となり、年初の地震災害の犠牲となられた方の御家族、また豪雨災害により、更に加えて新たに被災された皆様方の心中をお察し申し上げますと心の痛む思いです。謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

さて、来年には終戦八十年の節目の年を控え、各神社それぞれ臨時大祭・行事・大小の記念事業等を計画されていると拝察致します。当神社

におきましても御遺族の高齢化が進み、地区の慰霊祭、御命日祭等も新型コロナウイルスが鎮静化した現在も年々神社への御参拝者が減少している現状があります。

今後の御遺族の御参拝は徐々に遺児から、孫、曾孫の世代へと継承していかねければなりません。是非一度御家族皆様で御参拝頂き、護國の宮に神鎮まり坐す英霊に対し、懐かしき故郷並びに御家族の近況をご奉告されますとともに、御霊の安らかなお鎮まりと、ご家族皆様への一層のご加護を賜りますようお願いしてご祈念御参拝下さい。

御命日の御参拝の叶わない方は、来年終戦八十年の節目の年を迎えるのを機会に、永代祭祀の申し込みを頂き未来永劫英霊の慰霊顕彰に御協力賜りますようお願い申し上げます。

護國神社では、毎年松山北高、松山南高生のボランティア活動により、慰霊碑や愛媛万葉苑の清掃奉仕等が行われています。また、九月二十一日には国際連合が定める「世界平和デー」である事に因み、和プロジェクトTAISHI主催による平和を祈念する奉納揮毫が、平成二十九年より書道家の方の奉納揮毫が行われており、また令和元年より、書道家に加えて、松山北高等学校書道部、コーラス部、写真部も参加し、奉納揮毫が行われております。

この様に年々、次代を担う世代の参加が増え、護國神社との関わりを持って頂く事で、将来英霊の慰霊顕彰に繋がって行く事になるものと信じてやみません。御遺族の皆様には、特に来年の春秋の大祭には、御家族皆様で、崇敬者の皆様も知人、友人をお誘い頂き、多くの方の御参列を賜り、厳粛且つ盛大に「終戦八十年記念奉祝大祭」を斎行致し度く存じますので、御支援御協力賜りますようお願い申し上げます。

御挨拶

愛媛県遺族会

会長 関谷勝嗣



民主主義と社会主義国家の両立はなり得ないのか。

ロシアとウクライナ間の戦争。イスラエルとハマス間の戦争。私はこのような戦争が起きるとは思っていませんでした。私の考えが甘かったのでしょうか。戦争に勝者はありません。両国が妥協し合って初めて両国が成り立つことを認識すべきであろうと思います。

毎日の報道を見るにつけ、ほんの一握りの悪魔の心を持った者の行いに心底から憤りを覚えます。一刻も早く正しい心を持った者たちの努力で終戦することをお願いいたします。

私も齢八十を超えました。老後生活を現役時代には全く考えていなかったため、現在、老後の生活にいささか慌てています。何と言っても、第一に健康に留意し、

愛媛県遺族会会長として、英霊の慰霊顕彰と平和の尊さを後世に伝えるべく努力をしたいと考えております。

愛媛縣護國神社のご発展を心よりお祈り申し上げます。

平和を誓った戦後の歩みと

次世代の若者に託して

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 竹内誠治



戦没者遺児の世代が概ね八十歳を越し、孫世代の役割の大きさを改めて実感いたします。

多数の尊い命が失われた先の大戦（大東亞戦争―太平洋戦争）の終結から七十九年の歳月が経ちました。来年は、節目の八十年を迎えます。

戦没者諸霊はわが身と最愛の家族を顧みず、ひたすら祖国の安泰と平和を願ひ



つつ、ついに尊い命を祖国のために捧げられました。懐かしい故郷の山や川を想い、もっと生きたい、そして愛しい妻や子、優しい家族に逢いたいと願いつつ、散華された諸霊の往時を偲びますと、今なお痛恨の極みであります。

我々遺族は、戦後の混乱の中で、最愛の家族を失った悲しみに耐えながら英霊顕彰に尽力し、心が折れそうになったときにも互いに助け合い励ましあって、懸命に生きて参りました。

今日の物心共に安定した生活を取り戻すことができたのは、周りの人々の温かさ、命を繋いでいただいた諸霊のご加護によるものと、心から感謝致します。

戦後この平和な社会を築いてきた我々も、平均年齢が八十三歳と、高齢化の只中にあります。

英霊と生活を共にした記憶が、その人の心に残る心情は捉え方に差異があったとしても仕方ないことでしょう。一度でもいいからじいちゃんに会いたかったと遺影に語りかけるさまは、子供心の悲痛な叫びでしょうか。

二度と我々のような遺族を出さないため、改めて真の平和とは何かを真摯に自問自答すべきだと思えます。

先代が礎となって築いた立派な土壌を継承し、その次の世代は、草木に美しい

花を、木々に栗、柿等をたわわに実らせるために、戦争の傷を風化させることのないよう、しっかりと語り継いでいかねばなりませんし、その輪を広げていく責務は、我々に課せられております。

最近の厳しい国際情勢の中で、遺族の高齢化は進み、戦争を知らない世代が増え、先の大戦の悲惨さや記憶は風化の一途を辿っております。何とかこの連鎖を止めねばなりません。

英霊の顕彰活動を通して、平和の認識並びにその尊厳を若い世代に語り継いでいかねばと思ひ、全国的に展開されるよう、重点目標にある「語り部」事業に重きをおいております。

戦時中の生活は、苦しい時、辛い時も数多くありましたが、力を合わせれば何とかなること、公助、自助、扶助の使いわけにより光が見えてくること、今思うと何度かありました。

今一度、英霊の安泰と平和を願いつつ、極寒の地や灼熱の地で散華された英霊の胸中を察し思うと、胸が痛みます。

戦争や紛争は国主の心の持ちよう又は考え方により始まり、平和とは互いが理解し、助け合うことに起因するというコラムが目にとまりました。

何毎にも冷静さが大切です。

祈念
史料室
みゆきだより
(九)

戦争を知らない子供たちの使命

松山市遺族会

副会長 橋村 民生

私は戦後生まれの戦争を知らない子供たちの一人です。

一人の戦没者遺族としての思いを綴らせて頂きます。

叔父は、支那事変にて昭和十三年九月に戦死し、母方の祖父は昭和二十年七月に大東亜戦争でビルマにて戦死しました。

戦後六十年が過ぎたころ、叔父と同郷の戦友の方が私の父親のもとへ、一枚の写真を届けて下さりました。

「私は生きて帰ってきましたが、兼一郎さんは御国のために立派に果たされ靖國の桜の下に帰られました。私にできるのは、この写真をご家族にお渡しすることです」

支那事変出兵前日に撮られたその写真は、寄せ書きされた日章旗の下で戦友と映った写真でした。その顔つきは勇ましくもあり、どこか寂しそうにも見える写真です。私の父親は、涙しながら戦友の方にお礼を言っていたのを記憶しております。



母親がよく言っておりました。桜が咲くころになると思い出す。役場からお父さんのもとへ赤紙の招集令状が届けられ、「おめでとうございませう」、出征前夜に親戚や近所の方が集まりお祝いをし、また「おめでとうございませう」。母は子供ながらに、お父さんは死んでしまうと解っていて何がめでたいのか、悔しさと寂しさしかなかったそうです。父親の出征後には、遺品であつても容赦のない金属の供出、幼い弟は父の使っていた煙管を握りしめ、「これは、お父さんの」と言つて離さなかつたそうです。戦争も末期になると、昼夜を問わず鳴り響く空襲警報。防空頭巾をかぶつて防空壕に逃げ込む日々、防空壕の奥で布団を被つて身を守っていると、飛行機のエンジン音と共に「バリバリバリ、バリバリ」無差別に攻撃され、本当に恐

ろしかったといひます。そして八月六日、ついに広島に原爆投下。私の住む瀬戸内の島・中島は爆心地から約四十キロメートルの所にあります。母の記憶では鳴り響く空襲警報が鳴りやんだ後、北の空に雲のような煙のようなのものがモクモクと上がったそうです。少し認知症の進んだ母は、繰り返して何度も、戦争の無残さ、悲しさ、過ちを言っておりましたが、今年六月に他界し、戦争の語り部がまた一人減つてしまいました。私の島の墓地には戦没者専用墓地があります。その墓石に英霊の功績が刻まれており、御国のためと思ひ果たされた日付をみると、何とも言えない感情がこみ上げてくることもあります。私は、十五年ほど前に亡き父親から遺族会を引き継ぎました。引き継いで間もないころ、活動や地域の行事などもよく理解できていないまま地域の会長を引き受けることになり、戸惑いながらも、お手伝いをさせていただきました。戦争を知らない子供たちの世代が、今何をすべきか。戦争は、決して利益をもたらすものではなく、負のものしか残らない。私が親から聞かされた戦争の無残さ、残酷さ、悲しみ、過ちを次の世代へと伝えること。

英霊の象徴でもある忠霊塔、英霊墓地の維持を続けること。そして英霊顕彰と恒久平和を語り続け、これからも活動してまいります。



『戦友団体等による慰霊祭』

令和六年

- 五月十一日 愛媛シベリアを語り継ぐ会
- 五月二十二日 愛媛県殉職消防職団員
- 八月十七日 歩兵第二十二聯隊

『遺族会等による慰霊祭』

- 四月二十五日 今治市吉海町
- 五月十日 今治市朝倉
- 六月八日 西予市野村町野村地区
- 六月二十一日 西条市国安
- 九月二十二日 今治市大西町

〈永代祭祀料奉納者ご芳名〉

令和六年

- 八月十日 五日 一 金式萬円 松山市元怒和 片本 光枝様

〔寄贈図書〕

令和六年七月

- 一、「國の防人 第三十号」(二部) 愛媛大学名誉教授 阪中 雅広様

令和六年九月

一、「人生幾山河 私のへんろ道」

愛媛県西条市三芳

著者 北村禧三代様

令和六年(四月)春季慰霊大祭奉仕者

(敬称略)

愛媛県遺族会代表献供奉仕者

女性部 松山市南梅本町 吉田 雅子

遺児 松山市北梅本町 宮内 剛

献茶奠奉仕者(茶道裏千家淡交会松山支部)

山田宗由社中 松山市南斎院町 葉師寺 宗恵

仙波宗享社中 松山市生石町 松友 宗苗

献花奉仕者

聴 春 流 松山市二番町 西田 早希

聴 春 流 松山市二番町 奥山 莉奈

敬神婦人会代表献供奉仕者(愛媛県護国神社敬神婦人会)

今治市遺族会 今治市大正町 松本 京子

今治市遺族会 今治市新谷 桐山 幸栄

奉納生花奉仕者(愛媛県華道会古流松藤会)

松山市永木町 森 恵子

幣殿献花奉仕者(愛媛県華道会古流松藤会)

松山市永木町 森 恵子

幣殿献花奉仕者(華道家元池坊松山支部)

松山市北吉田町 崎山 智江美

松山市南梅本町 佐伯 由美

献吟奉仕者(清吟堂吟友会)

九日 奉安祭献吟 紙野 麗月

佐伯 瑞媛

永井 清長

尺八献奏者 長谷川 廣山

十日 大祭献吟

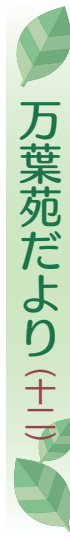
尺八献奏者

献誦奉仕者(愛媛県護国神社献誦会)

〔献誦〕

村井安夫会長以下有志一同

笠崎 瑞洋
赤樫 栄風
二神 清鷹
長谷川 廣山



鎮守の杜の万葉苑

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂

森林は古くから日本の生活環境を守り、四季折々の快適な自然を与えてきました。私たちの祖先は、この森の中で森と共に生き、森を畏怖すると同時に森は生活の糧を与えてくれる「神」でもありました。

森林に蓄えられた水の恩恵でさまざまな農作物も生み出されてきました。人類は太古から、深い森・老木や海・河・湖に対して近寄りがたい畏敬の念を持ってきました。それは今でも変わりません。我々の祖先はそのような場所に神社や寺を造ってきました。また集落には必ず神社や寺を造り、その周りにはその土地ならではの森を造ってきました。

つまり、その土地の守護神を祀った神社の森を鎮守の杜と呼んでいます。現在の御神体は本殿や拝殿などのしめ縄で張られた杜があり、それを囲むものが鎮守の森です。その一角に鳥居があり、それに続いて参道・その奥に本殿があり、その背後に杜があります。その奥の方に向かって礼拝するようになっていきます。御幸寺山を背景にした護国神社の場所はまさに格好の場所と言えましょう。

そもそも、古神道では神籬・磐座信仰があり、森林や森林に覆われた土地・山岳・巨石や海や河川(岩礁や滝など特徴的な場所)など自然そのものが崇められ、信仰の対象になってきました。

鎮守の杜はこのようにして大切に保存されてきました。しかし、孤立した森は面積が狭くなり、植生が分断されます。例えば古くからあった谷川が失われ、そのため乾燥化を招くことにもなります。また新しい植物が侵入することにもなります。その結果従来の植物や生物が消滅することにもなります。また逆に、変化した自然に相応しい植物が進出してきます。更に分断化した植生では動物の個体群の維持が困難になり、これら動物による花粉媒介や、種子の散布の効用を受けていた植物の劣化も避けられません。また人為的な攪乱もあります。例えば野生

でない植物が植えられたり、森林の下刈りや落ち葉掻きなども自然の森では荒廃を招くことになります。

ところで、鎮守の杜の効用はどうでしょうか。あの阪神・淡路大震災や東日本大震災の後、調査された報告があります。それによりますと、神社の鳥居も社殿も崩壊しているのに杜の木は殆ど倒れてもいなかった。それどころか火災や倒壊・崩壊を防いでいた事例も多かったそうです。

縁の樹木は平時には日陰をつくったり、落ち葉に困ることもありますが、材木・金属・コンクリートなどよりはるかに危機対応能力が高く、多くの人の命や財産を守っていたそうです。これこそ故郷の木による鎮守の杜の効用です。また、私たち現代人がしばしば鎮守の杜を訪ねています。神社や寺院の年末年始の賑わいは何でしょうか。初詣・七五三も森に囲まれた神社やお寺です。それには現代人の感覚を超えた何かがあるのではないのでしょうか。私もかつて伊勢神宮にお参りした時、亭々たる杉の大木と森閑とした神宮の杜に圧倒された記憶があります。五十鈴川の清い流れやザクザクと踏む砂利の音は今も脳裏に焼き付いておりません。それは生き物としての、あるいは人類としての日本人の深層心理と言うべき

ものが関与しているのではないのでしょうか。日本人としての生命観・命を見つめる畏敬の念が深く関わっているのではないのでしょうか。最近若者の間でパワースポット巡りが人気ですが、日本人が育み育ててきた鎮守の杜こそ、それに相応しいスポットではないでしょうか。

ところがその大切な杜が激減しているそうです。二〇〇七年、神奈川県には二千八百五十か所あった杜が、戦後六十年の間に四十か所に減ったそうです。日本全体で十五万か所以上あった鎮守の杜は、周辺住民たちの厳しい環境の中で、現在いかほど残っているのでしょうか。

靖國神社の周辺でも、厳しい住民運動に辟易していることを聞いたこともあります。鎮守の杜は、防音・集塵・防火など個別の環境保全機能や、地球規模で酸素を供給し、炭酸ガスを吸収する機能があるという発想だけでは杜は守れません。杜が秘めている奥深い、現代の科学・技術・医学あるいは宗教を通じても解明しきれない多様な機能をもう一度見直すべきではないでしょうか。

それにしても思い出されるのは、明治三十九年、神社合祀反対運動に命を懸けて取り組み、鎮守の杜を守った南方熊楠氏を思わずにはおられません。「雨にけふる神島かしまを見て紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」これは昭和三十七年、南紀白

浜に行幸された昭和天皇が熊楠を偲んで詠まれた歌で、姓名総てが詠みこまれた珍しい歌です。今や真剣に日本の緑を守らなければ、古代文明発祥の地の哀れな轍を踏むことを知らなければならぬでしょう。



正式参拜

令和六年

四月十五日

松山市遺族会女性部部长会

代表 清家 征子様

計十三名

四月二十一日

勝山仁桜相撲クラブ

代表 岡本 直丈様

計二十名

五月二十七日
晴朗会

代表 安永 教一様

計十五名

五月二十八日

愛媛県遺族会理事会

会長 関谷 勝嗣様

計十六名

六月二十一日

愛媛県遺族会評議員会

会長 関谷 勝嗣様

計二十一

六月二十三日

愛媛シベリアを語り継ぐ会

会長 松木 敏夫様

計十七名

六月二十七日

松山市遺族会役員会

会長 西村 利明様

計二十三名

七月五日

英霊にこたえる会愛媛県本部

総会
会長 佐伯 要様

計三十名

七月十一日

ベッセルホテルズレフ松山市駅

リーダー 村上 竜治様

計三名

七月二十日

ひの心を継ぐ会

会長 三浦 夏南様

計二名



五月十一日

愛媛シベリアを語り継ぐ会総会

会長 徳田トミエ様

計三名

八月八日
愛媛県瓦工事業組合

理事長 菊池 陽一郎様

計十八名

八月十一日

三宅浩正後援会・愛媛万葉苑

保存会

愛媛県議会議員

三宅 浩正様

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂様

計十三名

八月十五日

伊豫豆比古命神社

宮司 長曾我部 昭一郎様

計九名

西条市遺族会

会長 首藤 洋様

計七十一名



九月二十日
内子町遺族会五十崎部会

会長 宮久保 弘夫様

九月二十一日

和プロジェクトT.A.I.S.H.I

奉納揮毫

書道家 森永 紅峯様

松山北高等学校書道部

部長 山田 惺南様

計三十名



九月二十五日

観音寺市遺族連合会観音寺支部

会長 石川 豊様

計二十名

九月二十六日

松山市遺族会役員会

会長 西村 利明様

計四十名

愛媛縣護國神社英靈顕彰会 入会と継続のご案内

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。
今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國
神社英靈顕彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。
お問い合わせは、下記迄お願い致します。

愛媛縣護國神社 英靈顕彰会事務局 TEL (089) 925-2353

英靈顕彰会会員の特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備 考
会費(年額)	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神札	御守	紙札	木札(小)	年1回発送
社報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顕彰石彫	×	×	○	

そ
の
他

新
年
特
別
祈
禱

社
運
隆
昌

合
格
祈
願

家
内
安
全

交
通
安
全

厄
除
け

七
五
三
詣

初
宮
詣

当社では各種祈願を随時お受けしております。
時間等は社務所へお問い合わせ下さい。

御祈禱(お祓い)の
御案内